

岡崎市平和祈念式 式辞

本日は、戦没者・戦災死者のご遺族の皆様、並びにご来賓の皆様方におかれましては、ご多用のなか、岡崎市平和祈念式にご参列を賜り、心からお礼申し上げます。

本来であれば、多数の市民の方々にご参列いただきたいところですが、今年度も感染症拡大防止のため、規模を縮小して開催しておりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

さて、第二次世界大戦の終戦から、78年の歳月が過ぎようとしており、戦争を直接知る世代が数少なくなる今日ですが、多くの方々が、戦争の犠牲となり、お亡くなりになりましたことは、未来永劫忘れてはならない、深い悲しみの記憶であります。

ここに、日清・日露戦争から先の大戦において、祖国の安泰を願い、家族を案じつつ、戦場に散り、あるいは戦禍に倒れられた方々、そして、終戦に間近い、昭和20年7月20日未明の岡崎空襲による約280名の犠牲者を含む、本市における多くの戦没者及び戦災死者の御霊に対して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

また、最愛のご家族を失われ決して癒されることのない深い悲しみを胸に、今日に至るまで長く苦しい日々を過ごして来られましたご遺族の皆様の心痛を拝察いたしますと痛惜の念に堪えません。ここに改めて戦没者の皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご労苦に対し心から敬意を表します。

戦後、本市は、平和を願う市民の英知と、弛みない努力によって、荒廃の中から立ち上がり、多くの困難を乗り越え、目覚ましい発展を遂げてまいりました。

今月1日には、無事に市制施行107周年を迎えることができましたこと、心より感謝申し上げます。本市のこうした歩みは、戦争によって心ならずも命を落とされた方々の犠牲の上に成り立っていることを、私たちは決して忘れてはなりません。

悲惨な戦争の教訓を風化させることなく、平和の尊さを次の世代に語り継ぎ、二度とこうした悲劇を繰り返さないことが、私たちに課せられた責務であります。

世界に目を向ければ、ウクライナでは幼い子どもをはじめとする多くの命が犠牲となり、人々の平穏な日常が奪われる事態が起こっています。

このような時であるからこそ、改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、その記憶を風化させることなく次の世代に継承していくこと、そして次の世代を担う子どもたちが夢と希望をもって未来を切り開いていける社会の実現が私たちの使命であり、恒久平和の実現に向け努力し続けていくうえで重要であると考えます。

こうした社会実現のため、市民の皆様の声を聴き、意見を交わし、納得感のある「市民参加型市政」に取り組むとともに、市民参加型で好循環を生む、誰一人置き去りにしない、「日本一の幸せを実感できるまちづくり」を目指し、引き続き邁進してまいります。

終わりにあたり、戦没者及び戦災死者の御霊^{みたま}が安らかなりますこと、そして、ご遺族並びにご列席の皆様のご健勝とご多幸を、心よりお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和5年7月21日 岡崎市長 中根 康浩